

自由研究で、生成AIを活用しよう!

夏休みが近づいてきました。夏休みといえば、自由研究ではないでしょうか。夏休みの自由研究は、自分自身の興味・関心のあるものにゆっくりと取り組めるチャンスです。しかし、児童生徒が一人で研究を進めていると、どうしても壁にぶつかることがあると思います。そんなときに児童生徒に生成AIを活用させてみるのはどうでしょうか。

生成AIを活用できる場面はたくさんあります。例えば、①どんなテーマにするか相談する②調査方法、研究手法について相談する③結果から考察し相談して深めるなどです。生成AIの活用方法を身に付けさせて、①について夏休み前に授業で取り組んでから、夏休みに入ることで児童生徒に安心して生成AIを活用させることができると思います。

なお、生成AIを児童生徒に活用させる場合は、学校設置者のルールに従ったり、保護者からの承諾書を取ったりする必要があります。これらについては、当センターで作成した「生成AIガイドブック」を参考にいただければと思います。



生成AIとつくる「自由研究」

今回は、生成AIと一緒に研究のテーマを考える活動の事例を紹介します。ポイントは、生成AIに答えを聞くのではなく、生成AIに伴走者としてヒントを出してもらって進めることにあります。あくまで考える主役は児童生徒です。

項目	生成AIとのやりとり	ポイント
子供の入力プロンプト	私は●年生です。あなたは、自由研究の一流のアドバイザーです。私の自由研究のテーマを考えるのを手伝ってください。アドバイザーとして対話を繰り返しながら、私に寄り添って、私の考えを引き出してください。	年齢に合った対応を期待します。生成AIに「自由研究の一流のアドバイザー」として対応してもらいます。答えを教えないように依頼します。
生成AIの応答	最初の質問だけど、「理科の授業(物理・化学・生物・地学)や、普段の生活の中で、『なんでだろう?』ってちょっと気になっていることや、好きなこと」は何かあるかな?例えば、「料理」「スポーツ」「天気」「スマホの仕組み」とか、どんなに小さなことでも、科学に関係なさそうに見えることでも全然OKだよ!ひとつ教えてね。	研究の課題を考えやすいように1つ1つ質問をしてくれます。例えも記載してくれるところが良いです。
子供の入力	料理が好きです。	例から選んでもかまいません
生成AIの応答	まずは「料理」の方から、ちょっと掘り下げてみようか。普段料理をしたり食べたりしているとき、「これ、なんでこうなるんだろう?」って不思議に思ったことや、気になった現象はあるかな?例えば、お肉が柔らかくなる秘密とか、野菜の色が変わる瞬間とか……。もしパッと思い浮かぶものがあれば、教えてほしいな!	対話を通して、内容を深めてくれます。ここでも例えを出してもらえるので答えやすいです。この後も対話が続き、具体的な検証手順などを相談しながら、自由研究のテーマを決めることができます。

自由研究だけでなく、探究活動全般に活用できそうですね。

夏休みを通して情報モラルを再確認

夏休み中に子供たちがスマホでSNS三昧になってしまったり、トラブルに発展してしまう。そんな心配をお持ちの先生方もいらっしゃると思います。夏休み前にもう一度情報モラルについて確認しておく必要があるのではないのでしょうか。

そんなときの強い味方が当センターで公開している「#60秒情報モラル」です。使ったことがある先生方も多いかと思いますが約60秒の動画を見て、気付いたことの対話を通して、情報モラルを学ぶことができる動画教材です。例えば、「日常をつぶやく」や「元気づけるメッセージ」ではSNSで個人を特定されてしまう危険や自分の意図とは異なる伝わり方をしてしまう危険などについて考えさせる内容になっています。ぜひホームルーム等で活用してみてください。



情報モラル育成パッケージ「#60秒情報モラル」

「チョットもっと授業ナビ」で、子供たちの率直な意見を引き出す授業をつくろう

「チョットもっと授業ナビ」は、普段の授業での困りごとをICT活用で改善を図るストーリー仕立ての研修動画です。実践的なICTの操作演習も盛り込んでいます。研修動画は12本ありますので、月1回の研修や、会議後の隙間時間での操作演習など、各校の状況に合わせて柔軟に活用できます。その中から、今月は研修動画No.2をご紹介します。



「チョットもっと授業ナビ」

テーマ	研修動画No.2 「アイデアを出し合おう(意見共有)」	
授業の困りごと	<p>クラスみんなでブレインストーミングをして意見をたくさん出し合うことがあります。これまでの授業でも、子供たちの意見を付箋を用いて表明していましたが、掲示される場所が遠かったり、付箋が不足したり、数に埋もれて伝わらなかったり困惑したりする子供たちを目にすることがよくあります。子供たちの意見を生かすにはどうすればよいのでしょうか。</p>	<p>先生！貼るスペースが足りなくなっちゃいました</p>
ICT活用で改善	<p>「オンラインホワイトボード」を活用して改善を試みました。自由に配置ができるデジタル付箋を使って意見表明することで、子供たちの視認性が高まり、意見を沢山出しやすくなります。さらに、出されている意見を比較し、配置を変えてまとめていくことで、「協働的な学び」が促され、情報活用能力が育成されていきます。</p>	<p>友達の見もちょうど読めるぞ！</p>
演習	<p>オンラインホワイトボードの機能について学ぶ演習を設けています。みんなで同じホワイトボードに書き込む共有設定や、ホワイトボードのリンクの配布方法など、具体的な操作手順を解説しています。</p>	<p>デジタルツールの強みの1つがリアルタイム共有です</p>

(編集後記) 夏休みを機会ととらえて、ICTを学びに使う習慣を子供たちに芽吹かせていきましょう。ICT機器を学びの道具として活用できる子供たちになってほしいですね。 [第52号担当 山岸]